

史跡めぐり 「明治維新150年 太宰府幕末展」

10月15日、秋晴れの47名の会員が参加して行われました。太宰府天満宮本殿での正式参拝の後、宝物殿で開催中の「明治維新150年 太宰府幕末展」を歴史研究者・谷川佳枝子先生の講話を聞いて予習した後、見学・観賞しました。ここでも先生が展示物の説明をされて、参加者誰もがよく理解できました。

文久3年8月18日の政変で京都を追われた尊王攘夷派の公卿7名のうち5名が滞在した延寿王院（西高辻宮司私邸）を西高辻宮司の案内で見学させていただきました。普段は門外から眺めるだけのところですが、この日は格別の計らいで三条実美卿が滞在していた部屋や訪問・面会のために来た西郷吉之助、木戸孝允、野村望東尼等が控えた謁見の間を宮司から説明を受けました。



天満宮延寿王院前での参加者の記念撮影

豪勢なお昼を摂った後、松屋(當時は薩摩藩の宿)の2階を見学して、滞在した西郷吉之助や月照、平野國臣等、大久保一蔵の手紙にも触れることができました。尊王攘夷派の五卿をはじめ維新の志士たちが活躍した太宰府は、薩長同盟盟約の重要な機会となった所で、維新胎動の地

ということができるといふ説明も納得のゆくものでした。

帰路は、観世音寺・戒壇院に立ち寄り、国宝の梵鐘や観世音寺宝蔵の重要文化財の仏像などを田中崇和理事の説明で見学しました。観世音寺の梵鐘は菅原道真の詩にも「都府楼観看瓦色 観音寺唯聴鐘聲」と詠われています。

相島で300回遠忌法要

享保4年(1719)7月、相島で朝鮮通信使を迎える準備を行っていた福岡藩士ほか水夫など61名が大風で破船・遭難して亡くなり、昨年はちょうど300回遠忌に当たったため、大供養会を執り行われました。

7月22日、相島経塔様広場で神宮寺の中澤住職の表白と読経をいただいて執り行われました。参加者は地元の方々、朝鮮通信使や歴史に関心のある人およそ60名が犠牲者を偲んで焼香を行いました。

供養会実行委員会の委員長には当会の毛屋副会長が就き、昨年より地元の方、神宮寺檀家の方、漁業組合、婦人会、相島歴史の会、当会などが中心となって準備を進めてきました。



相島経塔様前であいさつする毛屋副会長

当会からは毛屋副会長はじめ天本理事、西田理事、東旭秀会員が参列しました。供養会の後は筑前琵琶奏者の東旭秀大師範(当会会員)の「藍嶋殉難碑」(作曲東旭秀さん、作詞示車右甫さん)が奉納されました。詞は相島での遭難の経緯を詠ったものです。

会員クリック⑳



小河浩

小河家は黒田家とは創成期以来、太い絆で結ばれてきました。黒田24騎の小河伝右衛門と、兄の家系の二流が福岡藩士として活動してきました。その中でも主だった家筋は途中で改易となったこともありましたが、いずれもまた藩士として復帰しており、明治を迎えています。また私の家筋は改易

を経験しなかったため、当家のラインをたどれば小河家は戦国期から明治にいたるまで途切れることなくお仕えしてきたことになりました。そうした祖先たちの事績を知りたいと思い、我が家に伝わった文書類やその他黒田家や他の藩士の家に残る史料などを読み解いていきたいと考えています。何分、それらの文書は多数にわたり、またあまりに多くの「小河」の名前が出てきますので簡単なことではありませんが、日頃から少しずつ様々な史料にあたるようにしています。小河家について何か興味深い情報をお寄せいただければ幸甚に存じます。



第10代藩主齋清公の逝去の様子について、立花平左衛門弾正日記に詳細に書き残されています。嘉永4年、弾正45歳の日記です。

この時江戸上屋敷(桜田邸)にいた藩の重役は立花弾正と浦上数馬、大音権左衛門の3名。

正月23日、「御容体御疲勞被為増候」と大殿様(齋清公)の様子を記し、「御服水を御上ケ 依而御葉御博取不被成」(水・食べ物をもどされ、葉も撈らない)と御前様(長薄公室である齋清公長女純)から話が合った。

そして26日、「夕方二至、其儘御閉被成、俄二騒キ、多紀殿(幕府から派遣された医師)も被伺、以ノ外之御様子と被申上、段々御療養を被盡候へ共、終二御絶縁二被為及候」(夕方になってそのまま目を閉じられ、多紀医師も来て診断し、大変な状況と申し上げられて療養を尽くされるも、ついにお亡くなりになられた)との記述がある。亡くなられた後も御前様、若殿様(長知公)、新堀様(秋月)、浦上数馬、立花弾正、納戸頭が順に薬を差上げる仕草をする様子が記されている。

27日に溜池の中屋敷に移して、湯灌をはじめ

訂正とお詫び

前号に誤りがありました。訂正とお詫びを申し上げます。

- ・ 忠行公→忠之公 (忠之公法要の記事)
- ・ 川路聖護→川路聖謨 (会員クリック)
- ・ 理事名「篠原カズエ」氏が脱落

集後編

当会の史跡めぐりでは、普段は見ることができないところを見学させていただいています。一昨年の宗像大社、昨年の太宰府天満宮と会員には好評を得ています。一人でも多くの方が参加いただければ幸いです。(天本)

ホームページアドレス

<http://toukoukai-kuroda.com/>